



戦後日本の翻訳絵本において多大な影響を与えた原著集成
レイ夫妻『ひとまねこざる』コレクション 全9作品
H. A. Rey and M. Ray's "Curious George"

Series Collection. 9 works.

NHKアニメでもおなじみ『おさるのジョージ』は、今を遡ること70年以上前に刊行された絵本シリーズ Curious George(日本語訳『ひとまねこざる』)が原作です。ハンス・アウグスト・レイ (Hans Augusto Rey, 1898 -1977) とマーガレット・レイ (Margret Elizabeth Rey, 1906 -1996) 夫妻が1941年に刊行を始めたこの児童向け絵本は、瞬く間に世界中で人気を博し、戦後日本でも翻訳され、今なお読み継がれている名作シリーズです。レイ夫妻自身による作品は7作品ですが、夫妻の死後もシリーズ絵本としての刊行が続けられ、皆さんもご存じのアニメーションでおなじみの作品となっています。

今回の特別展示では、貴重な原作刊行当時の英語原著、全7作品と、その前身となった作品2作品を展示しています。刊行当時の英語原著は、刊行された時期が戦中から戦後にかけてであったことも災いしてか、今では非常に珍しくなっています。そのため、日本国内はもとより、世界中でも揃って見ることができる図書館はほとんどありません。龍谷大学図書館では、この貴重な作品を揃って所蔵しており、皆さんご存知の『おさるのジョージ』が、刊行当時はどのような作品だったのか、また日本語に翻訳されるときにどんな変更が加えられたのか、などを研究するために活用されています。

また、今回の特別展示では、これら刊行当時の英語原著と併せて、日本語に翻訳された『ひとまねこざる』も紹介しています。小型の6冊は、今から60年以上前に日本語に翻訳された初版本を当時の姿で復刻したもので、大型の7冊は今も岩波書店から発売されている現代の翻訳本です。

『ひとまねこざる』の日本語への翻訳は、戦後まだ間もない1951年に光吉夏弥（1904年～1989年、『ちびくろさんぼ』の翻訳者としても有名です）によって、刊行が始められました。戦後当時、まだ日本では、欧米の絵本作品自体がほとんど知られておらず、これらを日本語に翻訳して広める最初期の取り組みとして『ひとまねこざる』が選ばれました。

しかし、日本語への翻訳は、当時の日本と欧米との社会や文化の違いが大きく影響して、苦勞の連続だったと言われています。たとえば、英語原著の中でスパゲッティが出てくる場面がありますが、当時の日本ではスパゲッティそのものが広まっていなかったため、そのまま翻訳したのでは、スパゲッティが何なのか伝わらなかったそうです。苦心の結果、日本語に翻訳する際には、絵はそのままに、本文は「うどん」に変更することにして、当時の子どもに親しみをもってもらえるような工夫がなされました。

また、最初の翻訳本は、英語原著や現在の翻訳本と比べて、本の開きが左右逆になっているだけでなく、本文も横書きではなく、縦書きになっています。これは、戦後当時、多くの日本語の本が右開きで、文字は縦書きだったためです。英語原著は、左開きで横書きでしたので、これをそのまま翻訳してしまったのでは、日本の読者になじみのない本の形になってしまう、ということで、本の開きと文字の向きを変更して、右開きで、縦書きに組み直されて翻訳されて刊行されたというわけです。もちろん、今では左開きの本もたくさん見られるようになったので、現代の日本語翻訳本も、英語原著と同じように左開きで横書きの翻訳となっています。

70年以上前に初めて誕生した時の英語絵本や、60年以上前に苦勞して翻訳された日本語絵本、そして今も愛される現代日本語絵本、これら3種類を見比べて、これらの様々な違いと、その歴史的な背景に思いをはせながらご覧ください。

1. 『ラッフィーと9匹のさるたち』 1939年 ロンドン刊

Raffy and the 9 Monkeys.

London, Chatto & Windus, 1939.

First edition scarce printing blue cloth hardback with illustration.

とても珍しい、Curious George シリーズの前身ともいえる作品です。この『ラッフィーと九匹のさるたち』は、夫妻が、まだパリに滞在していた1930年代に、フランス語で Rafi et les neuf singes として刊行されました。ついで1939年には、英語版として展示本と同じタイトルで刊行されます。奇妙なことに展示本は、前半部分の本文は英語、途中でフランス語に、そして後半部分はまた英語に戻る構成になっています。おそらく、当時の出版社による何らかのミスプリントと思われるのですが、残存数が非常に少ないため、その経緯は今なお未解決の研究対象となっています。

2. 『セシリーと9匹のさるたち』 1942年 ポストン刊

Cecily G. and the 9 monkeys.

Boston, Houghton Mifflin, 1942.

First edition early issue with original dust jacket.

1940年に、アメリカへの亡命を余儀なくされた夫妻は、渡米後にポストンで Curious George シリーズの刊行を開始します。その大きな成功を受けて、前身の作品にも再び注目が集まり、アメリカでは、1942年に復刊されています。オリジナルのロンドン版やパリ版ではタイトルのキリンの名前がラッフィー（Raffy）とあったものが、復刻版のアメリカ版ではセシリー（Cecily）となっており、以後このタイトルの方がよく知られることになりました。

3. 『ひとまねこざるときいろいろぼうし』 1941年 ポストン刊

Curious George.

Houghton Mifflin Company, Boston, 1941.

First edition, early issue with original dust jacket.

記念すべきシリーズ一作目。夫妻は、ユダヤ人だったので、ドイツナチス勢力の進展に伴い、フランスからアメリカへの避難を余儀なくされてしまいます。ポストンにたどり着いた夫妻が、かねてより温めていた作品を Houghton Mifflin Company から刊行したものです。当初は、単発の作品として刊行されましたが、刊行直後から非常に好評を博し、シリーズ化することが決定、以後、同社から次々とシリーズ作品が発表されることとなります。展示本は、初版二刷りと思われるものです。日本語への翻訳は、ほかの作品よりも後に出され、1966年に『ひとまねこざるときいろいろぼうし』として刊行されました。

4. 『ひとまねこざる』 1947年 ポストン刊

Curious George takes a job.

Boston, Houghton Mifflin, c1947.

First edition, later Printing with original dust jacket.

第一作の成功を受けて 1947 年に刊行されたシリーズ第二作。二作目も一作目と同じような黄色い表紙としたことで、以後このシリーズのイメージが定着していくことになりました。本書は、初版の後年刷りですが、初刷りとほぼ同じ形状を保つものです。日本で最初に翻訳されたのはこのシリーズ第二作で、1954 年に『ひとまねこざる』として刊行されました。

5. 『じてんしゃにのるひとまねこざる』 1952年 ポストン刊

Curious George rides a bike.

Boston, Houghton Mifflin, c1952.

First edition, early issue with original dust jacket.

第二作の刊行から約 5 年たって出されたシリーズ第三作。初版初刷りに近いものでオリジナルとほぼ同じ形状です。タイトルページに以前の所有者と思われる人物の名前が書かれています。日本語訳は、『じてんしゃにのるひとまねこざる』として、1963 年に刊行されています。

6. 『ろけっとこざる』 1957年 ポストン刊

Curious George gets a medal.

Boston, Houghton Mifflin, c1957.

First edition, 11th issue. Original yellow cloth.

シリーズ第四作。本書が 11 刷りであることからわかるように、この時点ですでに大変な人気を博しており、刊行初年から何度も刷を重ねています。この本ではカバーをおなじみの黄色いデザインとするのではなく、クロス装丁そのものに着色が施されています。当時、冷戦下にあった、アメリカとソ連の軍事開発競争（いわゆる宇宙戦争）が激化していく中で刊行されたもので、ロケットを題材にしているのは、こうした社会情勢の反映ともいえます。日本語訳は『ろけっとこざる』と題して 1959 年に刊行されました。

7. 『たこをあげるひとまねこざる』 1958年 ポストン刊

Curious George flies a kite.

Boston, Houghton Mifflin, 1958.

First edition, first printing with original dust jacket.

これまでは前作から次回作まで5年以上の期間を挟んでいましたが、シリーズ第五作は第四作の翌年1958年に刊行されています。これまでの黄色い表紙と違ってはじめて青地の表紙へと変わっています。カバーに痛みはあるものの、刊行当時の姿を保つ貴重なものです。日本語訳は少し遅れて、1966年に『たこをあげるひとまねこざる』として刊行されています。

8. 『ひとまねこざるのABC』 1963年 ポストン刊

Curious George learns the alphabet.

Boston, Houghton Mifflin, 1963.

First edition early issue with original dust jacket.

第五作と同様に青地の表紙を採用したシリーズ第六作。以前と同様約5年の間をあけて1963年に刊行されています。アルファベットを紹介する内容だったせいか、シリーズ中で唯一、初期の日本語訳のない作品です。

9. 『ひとまねこざるびょういんへいく』 1968年 ポストン刊

Curious George goes to the hospital.

In collaboration with the Children's Hospital Medical Center, Boston.

Boston, Houghton Mifflin Co., c1966.

First edition, early issue with original dust jacket.

レイ夫妻自身によるものとしては最後の作品となったシリーズ第七作。従来の黄色を基調としたイメージの表紙に戻されています。ポストンにあるこども病院とのコラボレーションで作られた作品で、夫妻の社会問題に対する姿勢を垣間見ることができるものです。日本語訳は、『ひとまねこざるびょういんへいく』と題して1968年に刊行されました。